

山形県における三世代同居・近居に関するアンケート 調査結果の概要について

2017(平成29)年3月
山形県子育て推進部
第一生命保険株式会社 山形支社
株式会社第一生命経済研究所

【調査目的】

山形県の特徴の1つである三世代同居や、親子両世帯が近くに住む三世代近居が、孫の見守りなど祖父母世代による子育ての手助けや、女性の働き方をめぐる意識、祖父母世代の生きがい等とどのような関連があるのかを明らかにする。一方、三世代同居・近居の家族では、ライフスタイルや価値観の違いなどによりさまざまな気遣いが必要になると考えられることから、実際に三世代同居・近居をしている人々が三世代同居・近居の暮らしにどのようなメリット・デメリットを感じているのかについても明らかにする。

【調査項目】

- (1) 親子の同居・近居についての意識
- (2) 女性の就労とワーク・ライフ・バランスについての意識
- (3) 生きがい・孫との関係についての意識

【調査対象】

山形県内に居住し、18歳未満の子どもまたは18歳未満の孫がいる男女

【調査方法】

訪問調査(第一生命保険職員による訪問)

【調査期間】

2016年9月8日～2016年10月14日

【回収結果】

- (1) 回収数 1,767 票
- (2) 有効回収数 1,703 票

【回答者の基本属性】

<調査集計対象>

- ・18歳未満の子どもがいる人(子世代) 1,011名(59.4%)
- ・18歳未満の孫がいる人(親世代) 562名(33.0%)

※子ども・孫の年齢が無回答のものなどを除外しているため、調査集計対象の合計と有効回収数は合わない。

<性別>

- ・回答者は、女性が8割近く（76.6%）を占めている。

<年齢>

- ・30代（25.1%）と40代（25.4%）をあわせて約半数を占め、60代以上は3割程度（28.5%）となっている。

<三世同居率>

- ・回答者の三世同居率は44.5%で、国勢調査より高い（参考：平成27年国勢調査 山形県の三世同居率17.8%）。

【調査結果】

1. 親子の同居・近居についての意識

（1） 親との同居・近居

①同居・近居の実態

- ・18歳未満の子どもがいる人では、親と同居・近居している人が3分の2（66%）を占め、していない人を大幅に上回っている。最も多いのは、夫の親との同居（37.6%）となっている。
- ・親との同居・近居のきっかけは、男性では、「結婚前から引き続き」（30.9%）、「結婚をきっかけに」（30.9%）が最も多いのに対し、女性では「結婚をきっかけに」（42.4%）が圧倒的に多くなっている。
- ・親と同居・近居する子世代はほとんどの人が親から何らかの支援を受けており、その支援内容は、「子どもの相手・預かり（日常的に）」（49.2%）が最も多く、「家事の手伝い」（37.8%）、「子どもの送り迎え」（34.8%）と続いている（複数回答）。

②同居・近居についての意識

- ・親と同居する子世代では、「予定は事前に伝える」（57.3%）、「お互いの生活スタイルにあまり干渉しない」（52.2%）など、生活のさまざまな面で気をつけていることであると答えている（複数回答）。こうした気遣いは男性より女性で多く、同居する親とのコミュニケーションに関しては女性の方がより気を遣っている様子がうかがえる。
- ・現在親と同居・近居していない子世代に理想の住まい方をたずねた結果では、妻の親との近居が好ましい（32.3%）とする人が最も多く、特に女性にその傾向が強くみられた。

（2） 子との同居・近居

①同居・近居の実態

- ・18歳未満の孫がいる人では、子世帯と同居・近居している人が63.5%を占め、していない人を上回っている。最も多いのは「息子の世帯との同居」（29.7%）となっている。
- ・子世帯との同居・近居のきっかけをみると、男女とも子の結婚前からの継続が最も多い。
- ・子世帯と同居・近居する親世代の多くが「孫の相手・預かり」など、さまざまな形で子世帯の子育てを支援している。支援内容は、男性では「孫の送り迎え」（50.8%）、女性

では「家事の手伝い」(45.2%)が多い一方、「孫の預かり」や「金銭的な援助」、「物資での支援」などでは男女差はみられない(複数回答)。

②同居・近居についての意識

- ・ 子世帯と同居する親世代では、「お互いの生活スタイルにあまり干渉しない」(64.7%)など生活のさまざまな面で気をつけていることがあると答えている(複数回答)。こうした気遣いは男性より女性の方が多く傾向がみられ、同居する子とのコミュニケーションに関しては女性の方がより気を遣っている様子がうかがえる。
- ・ 現在子世帯と同居・近居していない親世代に理想の住まい方をたずねた結果では、子世帯との同居より近居が好ましいとする人が多く、特に女性にその傾向が顕著にみられる。

(3) 同居・近居のメリット・デメリット

18歳未満の子どもがいる人、18歳未満の孫がいる人それぞれに、三世代同居・近居のメリット・デメリットをたずねた結果をみしてみる。

①同居・近居のメリット

- ・ 三世代同居のメリットとしては、親・子ともに「親子で助け合いながら生活できる」(親 70.1%、子 49.1%)、「祖父母が孫の成長を見守ることができる」(親 54.3%、子 34.8%)、「祖父母のふれあいが孫の成長によい」(親 53.4%、子 38.4%)が上位回答となっている(複数回答)。
- ・ 近居のメリットについても、親・子ともに同居と同じ項目が上位回答となっている。
- ・ これらのメリットがあると考えている人は、子世代より親世代の方が多く、また近居より同居の方がやや多い傾向にある。

②同居・近居のデメリット

- ・ 三世代同居のデメリットとしては、「人間関係の面で気を使う」(親 55.3%、子 49.2%)、「世代間に生活習慣や価値観の違いがある」(親 56.6%、子 47.1%)、「子育てに対する考え方の違いがある」(親 36.5%、子 33.6%)、「親の老後の面倒をみるのが子の負担になる」(親 28.6%、子 16.3%)等が多かった(複数回答)。同居のデメリットをあげた人は、近居のデメリットに比べて多かった。
- ・ 近居のでメリットについても、親・子ともに同居と同じ項目が上位回答となっている。
- ・ 同居のデメリットをあげる人は、子世代では、親と同居する人に比べて、近居している人で多かったのに対し、親世代では、子と同居・近居していない人で多かった。同居のデメリットは、実際に親や子と同居している人よりも、していない人にイメージされやすく、近居より同居の方がデメリットがイメージされやすいと考えられる。

(4) 行政に望む施策

- ・ 18歳未満の子どもがいる人、18歳未満の孫がいる人が、家族の絆で支え合う暮らしの促進に向けて行政に望む施策としては、「同居・近居に対する税制上の優遇措置」(親 47.9%、子 37.7%)、「同居・近居のための住宅取得・リフォーム費用補助の強化」(親 45.9%、

子 38.9%)、「安心して介護ができる環境づくり」(親 40.7%、子 29.3%) が上位回答となっている。

- ・行政に望む施策は親世代の方が子世代より取組みを望む回答が多い傾向にある。また、親世代は「安心して介護ができる環境づくり」を望む人も多く、息子・娘世帯との同居や近居を好ましいと考えながらも、自身の老後の介護等が子の負担になると懸念する人が少なくないことがうかがえる。

2. 女性の就労とワーク・ライフ・バランスについての意識

<就労状況>

- ・18歳未満の子どもがいる1,011名の就労状況は、全体では68.7%が「有職者」(自営、役員、会社員、パートの合計、以下同じ)である。性別にみると、男性は「有職者」が81.7%、女性は「有職者」が64.1%である。
- ・なお、女性では同居・近居している人の有職者比率は66.7%、していない人は59.7%であり、親と同居・近居している人の有職者比率が高い。

(1) 管理職登用への意向

- ・18歳未満の子どもがいる有職者について、管理職や役員の要請を受けた場合、それを引き受けるかについてたずねた結果をみると、男性では「引き受ける」(48.4%)が最も多いのに対し、女性は「家族に相談して決める」(41.8%)が最も多く、次いで「断る」(23.7%)が「引き受ける」(17.4%)を上回った。
- ・女性について親との同居・近居の有無別にみると、「引き受ける」は17.9%で同率であるが、「家族に相談して決める」が同居・近居をしている人では44.5%、していない人では40.2%、「断る」が同居・近居をしている人では21.5%、していない人では29.9%である。女性では同居・近居している人の方が管理職の要請に前向きに受け止める人がやや多い傾向がみられる。

(2) ワーク・ライフ・バランスと家事・子育て

①生活時間

- ・18歳未満の子どもがいる有職者の生活時間について性別に比較すると、仕事にかかる時間は平日、休日ともに女性よりも男性の方が多いが、家事、子育てについては、平日・休日ともに男性より女性の方が長い時間を費やしている。
- ・仕事をもつ女性が平日「仕事」にかかる時間は、親と同居・近居している女性の方が、していない女性よりも長い傾向がみられる。
- ・仕事をもつ女性が平日「家事」にかかる時間は、親と同居・近居している女性の方が、していない女性よりも短い傾向がみられる。
- ・仕事をもつ男性が平日「家事」にかかる時間は、親と同居・近居していない男性の方が、している男性よりも長い傾向がみられる。

②夫の家事実施状況

・18歳未満の子ども及び配偶者がいる女性が、夫の家事実施状況を回答した内容によると、「子どもの保育園・学校行事への参加」(42.5%)が最も多く、「食事の支度や後片付け」(40.4%)、「急用などの場合の子どもの預かり・見守り」(37.7%)と続いている。(複数回答)

・親との同居・近居の有無別にみると、多くの家事で、同居・近居していない人の方が、同居・近居している人よりも実施している割合が高い傾向にあり、特に「食事の支度や後片付け」の実施には大きな開きがある。

③親に頼ることがある家事や子育ての内容

・18歳未満の子どもがいる人に、家事や子育て・教育などを親に頼ることがあるかをたずねた結果、「どれもしていない」(男性15.3%、女性15.2%)は少なく、何らかの家事や子育てを親に頼っている人が多い。具体的な内容は、男女ともに「急用などの場合の子どもの預かり・見守り」(男性54.1%、女性57.7%)と「食事の支度や後片付け」(男性46.3%、女性42.8%)が上位であった。(複数回答)

(3) 女性就労をめぐる意識

①女性が家庭の外で働くことへの意識

・18歳未満の子どもがいる人は、女性が家庭の外で働くことについて、「子どもができてもしっかりと働き続ける方がよい」に男性では61.6%、女性では55.0%が回答している。

・親との同居・近居の有無別にみると、男女ともに親と同居・近居している人の方が女性の継続就労を肯定する人が多い。

②家庭生活、仕事、地域活動のバランス

・18歳未満の子どもがいる人に、家庭生活、仕事等でバランスの取れた生活を過ごしているかをたずねたところ、バランスがとれていると思う(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下同じ)と回答した人は男性57.1%、女性52.0%であり、男性の方がバランスがとれていると思うと回答した人の割合が高い。

・親との同居・近居の有無別にみると、バランスがとれていると思うと回答した人は、同居・近居している人では男性58.7%、女性55.5%であり、同居・近居していない人では男性60.2%、女性50.5%である。男性では同居・近居の有無であまり大きな差が見られないが、女性では同居・近居している人の方がバランスのとれた生活をしていると思う人の方が多い。

(4) まとめ

<親との同居・近居が女性の活躍推進にもたらす影響>

・管理職の要請を受けた場合、同居・近居している女性は、そうでない女性よりも前向きに考える人がやや多い傾向がある。

- ・平日に仕事にかかる時間は、親と同居・近居している女性の方が長い傾向にある一方、家事にかかる時間については、親と同居・近居している女性の方が短い傾向にある。親と同居・近居している場合には、家事負担が軽減されるため、多くの時間を仕事に費やすことが可能となっていると推察される。
- ・一方で、男性を見た場合、親と同居・近居していない男性の方がしている男性よりも平日の家事にかかる時間が長い傾向にあり、親と同居・近居している人よりもしていない人のほうが、夫が「食事の支度や後片付け」などの家事を実施している割合が高いなど、親の支援が夫の家事協力を代替していることを示す結果もみられ、男性の家事協力という面では課題もみえた。親との同居や近居にかかわらず、女性のほうが家事・育児にかかる時間が長く、男性の家事・育児参画の意識醸成も必要であることがうかがえる。
- ・女性の継続就労について、親と同居・近居している方が肯定する傾向にあり、親との同居・近居という住まい方が、意識面においても女性の継続就労を後押ししていることがうかがえる。

3. 生きがい・孫との関係についての意識

(1) 孫とのふれあい

①頻度

- ・18歳未満の孫がいる人が孫とふれあう頻度は、息子・娘と同居している人では「毎日又はほぼ毎日」と回答した人が男女ともに約9割におよぶが、近居している人では約3割程度と頻度は少なくなる。同居・近居していない人では男女ともに「年に数日」が33.3%、「月に数日」が37.3%となっている。

②ふれあう時間への意識

- ・孫とふれあう機会のある人は、孫とふれあう時間に対して、「生活の中での楽しみの1つ」と答えた人が52.1%と最も多く、「一番の楽しみで生きがい」と答えた人(16.0%)とあわせると、約7割が孫とのふれあいを楽しみと感じている。
- ・子との同居・近居の有無別にみると、同居している人は「日常の中の一場面では特別なものではない」の回答割合が2割以上を占めており、孫とのふれあいは特別なものではなく日常的なものと認識している人が相対的に多い傾向にある。近居している人は「生活の中での楽しみの一つ」の回答割合が6割を占めており、孫とのふれあいを日常生活の中での楽しみと意識している人の割合が高い。同居・近居していない人は「一番の楽しみで生きがい」の回答割合が2割を占め、孫とふれあう機会を一番の楽しみとしている人が多いことがうかがえる。

③ふれあいの頻度への評価

- ・18歳未満の孫がいる人に、孫とふれあう機会が年に数日しかない場合どのように感じるかをたずねたところ、「ふれあう機会がないのはさみしい」(男性58.1%、女性56.7%)との回答が最も多かった。(複数回答)

(2) 生きがい・幸福を感じる時

① どのようなときに、生きがい・幸福を感じるか

- ・ 18歳未満の孫がいる人が生きがい・幸福を感じる時は、男性では「家族と一緒に過ごすとき」(49.5%)、「趣味活動やスポーツをしているとき」(42.9%)が多く、女性では「友人や仲間と過ごすとき」(52.5%)が「家族と一緒に過ごすとき」(45.5%)を上回っている。
- ・ 子世帯との同居・近居の有無別にみると、同居している人は「家族と一緒に過ごすとき」「家事・育児など家族の世話をしているとき」の回答割合が、同居していない人に比べ高く、家族と一緒に過ごしたり、家族の世話をしたりすることに生きがいを感じている人が相対的に多い。この傾向は女性で特に顕著である。

② 孫を含めた地域の子供達にしてあげたいこと

- ・ 18歳未満の孫がいる人に、孫を含めた地域の子供達にしてあげたいことをたずねたところ、男女ともに「地域の中で子供達が安全に暮らせるようにしたい」(男性 75.2%、女性 71.3%)が最も多かった。2位は男性は「子供達に遊びや自分の技を教えたい」と「地域の歴史や文化を伝えたい」がそれぞれ 21.9%であり、女性は「子供達に伝統料理や自分の知識を伝えたい」(19.9%)であった。

(3) まとめ

<親世代が同居・近居により得られる効果>

- ・ 同居・近居の有無にかかわらず、「孫とのふれあいが生活の中での楽しみの一つ」と答えている人が多いが、同居している人では、孫とふれあう時間は「日常の中の一時間で特別なものではない」との意識も目立っている。
- ・ 生きがいや幸福を感じる時については、息子や娘世帯と同居している人は「家族と一緒に過ごすとき」と答えた人が最も多いが、近居している人や同居・近居していない人では「友人や仲間と過ごすとき」と答えた人が最も多かった。
- ・ 同居・近居の有無にかかわらず、孫の健やかな成長を願い、孫とのふれあいを大切に思う気持ちに変わりはないながらも、「孫とふれあう時間への意識」や「生きがいや幸福を感じる時」には、同居している人とそうでない人とでは若干ながら違いがみられた。

以上